

奈良県曽爾村と近畿大学農学部との連携について

連携の概要

■ 近畿大学農学部

- **奈良県内唯一の農学系学部**
(奈良市内にキャンパス設置)
- 学生数：3,000名程度
(奈良県内最大規模)
- 学部学科数：6
- 大学院専攻数：5

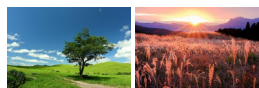
■ 奈良県曽爾村

- 「日本で最も美しい村」連合にも加盟している自然豊かな山村
- 人口：1,295名
(出典：令和2年国勢調査)
- 標高：400m～450m程度
- 主要産業：農業、観光業
- 主要農産物：米、トマト、ほうれん草 等



奈良県奈良市・奈良キャンパス(農学部)
大阪府東大阪市・東大阪キャンパス

道のり約60km



出典：曽爾村観光協会WEB
(<https://sonimura.com/sightseeing/1/>)
(2023/6/21閲覧)

連携の経緯、これまでの主な連携活動

- 2016年頃
農業・食分野を中心とした連携について、曽爾村と奈良県内で唯一、農学系学部のある近畿大学農学部で協議開始
- 2017年
曽爾村内にて、**農業生産科学科の実習(夏期集中)**を開始
- 2019年
曽爾村・近畿大学にて**包括連携協定を締結**
- 2020～2021年
特産品の共同開発(曽爾村産の素材を利用した**トマトソース**)
- 2022年
ほうれん草レシピブックの共同制作
- 2023年
そののわCSAの共同実施を開始
- 継続実施/随時実施
 - 曽爾村内や奈良県内、近畿大学農学部(農学部祭含む)での**各種マルシェの共同実施**
 - 曽爾村での**援農活動・農業サポーター**
 - 「近大味めぐりおせち(近畿大学と近鉄百貨店のコラボおせち)」や農学部食堂・近畿大学附属病院での**曽爾村産食材の利用**
 - **各種研究活動**の実施(フィールド調査・アンケート調査) 等



農業生産科学科の実習(夏期集中)の実施

- 科目名
農業実習(2017年度～2022年度)、農業農村インターンシップ(2023年度～)
- 主な内容
主要農産物(トマト、ほうれん草、米)関連の農作業、そののわの台所 katteでの加工・販売作業 等



特産品の共同開発：曽爾村産の素材を利用したトマトソース

- 規格外品トマトの有効活用等を目的に開発(きのこ当帰、柚子はちみつ)の2種類)
- そののわの台所 katteや、曽爾村農林業公社のオンラインストア、奈良市内の販売店等にて販売中



トマトソースが伝える曽爾村の新たな「味力」

曽爾高原の麓、寒暖差の大きな気候と豊かな水が育んだ味の濃い真っ赤なトマト。伝統野菜の太当帰、ニホンミツバチから取れた希少な蜂蜜、ゆず、きのこ。このトマトソースに使用される材料はほとんどが曽爾村で採れたもの。曽爾村の豊かな自然の恵みを受けた食材を賢くに使用しました。「曽爾の新たな食の魅力を届けたい」そんな思いがこの商品に詰まっています。



ほうれん草レシピブックの共同制作

- 曽爾村の主要農産物の1つであるほうれん草のPRのために、オリジナルのレシピブック(20レシピを掲載)を制作
- そののわの台所 katte等で、レシピブック掲載のメニューを使用した特製弁当を販売



そののわCSAの共同実施

- 近畿大学農学部の学生・教職員有志が「そののわCSA」のメンバーとなり、曽爾村産の農産物を前払い方式で共同購入 ※大学単位でのCSA(地域支援型農業)は日本国内では先駆的な取り組み



SONI×KINDAI AGRI
地域支援型農業